

【講演1】「瀬戸内海国立公園と大久野島について」 環境省中国四国地方環境事務所

	質問内容	回答
1	<p>まず、このようなワークショップ開催を感謝します。その上で経緯に興味があります。以前は休暇村でうさぎの餌を販売していたようですが、国有地がほぼ全域を占める国立公園で一定年数このような行為が放置されていた理由を知りたいです。</p>	<p>大久野島は昭和25年に瀬戸内海国立公園に編入され、大久野島集団施設地区として、国立公園の利用・管理のための施設を総合的に整備し、快適な公園利用の拠点とするために、整備が行われてきました。ウサギ導入の経緯には、昭和40年代に島外の小学校で飼育されていた個体が遺棄された、また、島のマスコットとして意図的に導入された等の説があります。大久野島は元々特殊な環境のため、希少種保全など緊急の対策が求められる状況になかったことから、これまではウサギの個体群管理の必要性について、関係者間で認識がなかったのではないかと思います。しかしながら近年は人もウサギも増え、それによる様々な課題が顕在化し、問題意識が高まったことが背景にあります。</p>
2	<p>平成30年以前は、給餌によるウサギが増加していたにもかかわらず、MOEJ(環境省)の特に目立った動きを知ることがなかったのですが、昨年からヒアリングやアンケート、今年はワークショップという取り組みになされるようになった理由というか経緯を知りたいです。</p>	<p>平成30年度より前から大久野島のウサギを取り巻く各種の問題については、公園利用者からの意見等で認識していましたが、対策に係る予算確保や関係者との調整等のため実施までに時間を要しました。平成30年度のウサギの個体数把握や関係者へのヒアリング等の各種調査は、島の適正な利用の推進及び国立公園の利用者の安全確保の観点から、今後の対策の方向性を検討する上で、まずは島の現状を正確に把握する必要があると考え実施しました。方向性の検討の場としてワークショップという形態を選んだのは、様々な立場や考えの大久野島関係者が集まり、課題を共有し、課題解決に向けて皆でアイデアを持ち寄り考える過程を経ることで、連携して取り組む関係づくりにつなげたいと考えたためです。関係者が協働することによって、より幅広い取組につなげたいと考えています。</p>
3	<p>個体数の管理(確認)を定期的に行わなかったのには何か理由があるのでしょうか？</p>	<p>大久野島は離島であり無人島であること、一方で希少生物の生息地や特異な生態系を有する環境ではないことから、島内に外来種であるウサギが生息し、個体数が増えることに対して特段の問題意識はなく、個体数管理の必要性を認識していなかったためと思います。しかしながら、近年は来島者が増え続け、ウサギの個体数も増えていくにつれて、島の適正な利用や公園利用者の安全確保の観点から対策の必要性を認識しています。</p>
4	<p>ウサギが増殖し続けることに対して、「どの程度まで」という予測はしていますか？</p>	<p>個体数の増減に影響を与える要素として、生息環境や給餌を含む餌量など様々な要因が関係しますので、個体数の上限についての予測は困難と考えています。</p>
5	<p>ウサギが無限に増え続けることはないと思いますが、ウサギが不幸になることも考えられると思います。1996年頃400羽と聞きました。←この時間いた話では、入水自殺するウサギがいる←自然淘汰しているのではないかとのことでした。2019年ほぼ倍になっています。</p>	<p>過去の個体数調査の結果や、以前の状況を知る方々への聴き取り結果からは季節変動はあるものの、長期的に見てウサギの個体数は増加傾向であると考えています。人による給餌によりウサギが増え続ければ、ウサギにとっても病気や負傷、捕食者に襲われるなどのリスクが増大することが考えられます。</p>

6	竹原市による来島者数のデータはどのように取られているのか？→来島者数が増えていなくても持ち込む餌が増えていたという可能性は？	竹原市による来島者数のデータは、大久野島の施設(毒ガス資料館や休暇村など)の利用者数をベースに出しているものです。来島者数が増える前から餌の持込み量が増えていた可能性はあるかも知れませんが、根拠となる情報は持ち合わせておりません。
7	DMOを視野に入れているのか？	環境省が自らDMOを立ち上げることはありませんが、今回のワークショップ等による検討に基づいて、関係者が引き続き大久野島とそれを取り巻く地域のあり方について考える場については、持続可能な形態ができることが望ましいと考えています。
8	現状把握調査で明らかになったという「個別の対応では解決しきれない問題」というのは具体的にどんなことですか？	例えば、環境省としては、大久野島は瀬戸内海国立公園内であり、所管地であるため、島内の課題には対応できませんが、国立公園外である忠海港等が関わる課題については環境省のみでは対応しきれないことがあります。また、課題解決策を進めていくためには、実施体制、予算の獲得、広報等についても考えなければいけません。これらが制約となり個々の主体のみでは実施が難しいものも、連携して取り組むことで実施可能なアイデアを生み出すことも考えられます。
9	問題と課題をどう使い分けているのでしょうか？	第2回ワークショップでは、解決したいと考えている事柄を「問題」、解決するために起こした方がよい取り組みを「課題」と使い分けましたが、問題と課題が重なる部分が多いので、このワークショップでは「課題」に統一することにしました。
10	大久野島の神社などこかが管理されているのですか？ボロボロになって立ち入り禁止になっていますが、復活しないのでしょうか？	『大久野島遺跡めぐり』という冊子の「④大久野島神社 神社前の広場 殉職碑」という項目に次のように記載されています。『現在の休暇村宿舎近くにあった神社を毒ガス工場開所(1929年)の際、従業員たちが社殿を修復して「大久野島神社」とし、現在の場所に移転しました。境内では様々な行事(紀元節、天長節など)や式(入学式・卒業式など)が行われました。1937年には、境内に毒ガス生産による犠牲者の殉職碑が建てられました。』そのため神社は、現在の場所に神社を移転した方々の共有物と考えられ、今では所有者、管理者ともに不明のため、環境省で対応することができません。
11	大久野島は本土から水道が通っておらず、給水船で水を運んでいると聞きました。島内の水は足りているのか心配になります。温泉が湧いているので大丈夫でしょうか。プールは必要なのかと思えます。(海水浴場もあるので)	島内の水は本土から週に1回程度の給水船による給水でまかなっています。プールは休暇村大久野島が設置したもので、夏期間のみ休暇村大久野島により運営され、その時期は給水船を1~2回程度増やす対応となります。年間を通して不足しないよう給水しておりますが、適切な水利用にご協力をお願いします。
12	西海岸エリアのトイレの整備をお願いします。	今後、環境省で整備するよう検討していきたいと考えています。

13	昨年の土砂崩れで通行止めになっている道の改善はいつ？	道の復旧工事について本年度入札公告したところ、広島県内の工事業者があちこちの災害復旧工事で多忙のためか入札者が現れず、工事に着工できていないところです。次年度早期に工事ができるよう対応していきます。
14	崩れた廃墟は今後どうなる？	歴史的施設については、環境省所有ですが国立公園の事業として積極的に保存することは考えていません。文化財として保存する場合は関係者と協力していきたいと考えています。
15	平和学習と言われますが、遺跡がどんどんダメになっていっているように思います。それはなおしたりしないのですか？保存をするということはされないのですか？	上記5回答と同様の回答です。
16	灯台とか神社とか立ち入り禁止が多くて、(展望台も含め)どうされるのでしょうか？直されるのでしょうか？	灯台は海上保安庁の所有・管理となっているため環境省では対応できません。 神社は上記1回答のとおり所有者、管理者ともに不明となっているため環境省では対応できません。 展望台に至る道の復旧に関しては上記4回答のとおり、次年度早期に工事ができるよう対応していきます。
17	毒ガスの遺跡の保存や整備などに環境省は関わっているのでしょうか？	環境省では国立公園利用の一環として、島内に残る歴史的施設を安全に観るためのアクセス歩道や解説標識、人止柵等の周辺整備を実施してきたところです。一方で、歴史的施設については、環境省所有ですが国立公園の事業として積極的に保存することは考えていません。文化財として保存する場合は関係者と協力していきたいと考えています。
18	忠海の山側の国立公園部分の管理者&管理拠点は何？	忠海の山側である黒滝山～白滝山周辺の国立公園区域に関しまして、国立公園利用施設は主に広島県により整備され、竹原市や三原市によって管理されております。
19	ルール共有のホームページなどができたら、SNSなどで拡散してもいいですか？	今後、皆さんの合意に基づく大久野島に関するルール等がまとまりましたら、積極的に発信していただきたいと考えています。
20	例えば個人で店舗などに看板・ポスターなどでルールを拡散してもいいですか？	
21	アンケート調査の詳しい内容について、データを示していただきたい	アンケート調査の結果については、中国四国地方環境事務所のホームページで公開する準備を進めています。